◆特集◆　地域の安全・安心を守る消防団

【消防団員】

消防団員は、会社員・自営業・主婦・学生など本来の仕事を持ちながら、非常勤の特別職の公務員として、火災、水害、地震などの災害発生時には消防職員とともに災害活動を行っています。また、地域の防災活動力を高めるために初期消火や応急救護活動、平常時には、災害から地域住民の生命、財産を守るための予防・広報活動、地域のお祭りなどの警戒、参加協力を行うなど、多くの役割が求められます。このように、地域における防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、地域の安全・安心を守るという重要な役割を担い、「自分たちの地域は自らで守る」という郷土愛護の使命感のもと、722人が火災予防組合や婦人防火クラブ等、消防本部、消防署とも連携し活動をしています。

項目	能代市	県平均
消防団員充足率	85％	88％
サラリーマン化率	74％	77％
平均年齢	48歳	45歳

（10月1日現在）

【機能別団員】

今年3月の市議会定例会において能代市消防団条例が一部改正され、4月1日から機能別団員が従事する任務及び任用資格が拡大され、5月1日秋田しらかみ看護学院の学生24名が能代市消防団に機能別消防団員として入団しました。5月26日に行われたのしろ子どもまつりでは、多くの子供たちに対しさまざまな防災体験を案内しており、今後は、学んだことを地域のために生かせるように、災害時の救護活動だけでなく、平常時の応急手当ての普及指導、防災教育などの活動に取り組んでいくそうです。

（※機能別団員とは、昼間の火災及び大規模災害、火災予防、広報、救護活動などの特定の任務に限り従事する消防団員のこと。）

市消防競技大会（7月7日）

【課題と今後】

地域コミュニティーの核として存在し、個人事業主や農業従事者等によって充足されていた消防団でしたが、能代市においても団員に占めるサラリーマンの割合が74％まで増加したことで、災害時の日中動員力が著しく低下しています。また、若い世代は新興住宅地へ住むケースもふえ、地域では人口そのものが減り続けている状況などの社会情勢の変化により、地域防災力のかなめである消防団員が減少し、防災の担い手を十分に確保することが困難になってきています。今後も持続可能な消防体制を確保するとともに、大規模化する自然災害にも柔軟に対応できるよう、かつ消防団員の負担軽減が図られるよう、消防団の新たな組織体制を構築するべく検討を行っており、能代市消防団では、今年度策定された計画をもとに、令和2年4月1日から3年間を再編のための準備期間とし、令和5年4月1日より能代地区7個分団、二ツ井地区2個分団に分団統合を進めて活動していくことになっています。

今後も地域の安全・安心を守る消防団に対し、地域の皆様の深い御理解と御支援が必要と感じました。

県消防操法大会に出場した郡市代表の能代12分団（常盤）がポンプ車操法の部で見事2位（8月24日）

文：落合範良　渡邊正人